

○岡田 浩<sup>1,2</sup>

<sup>1</sup>京大院医, <sup>2</sup>アルバータ大医

先進諸国では、ライフスタイルの変化と社会の急速な高齢化の進行に伴う糖尿病や高血圧といった慢性疾患の患者数の増加は各国共通の喫緊の課題となっている。

薬局薬剤師は、患者にとって気軽に相談できる身近な医療者である。海外ではその特性を活かし、従来の薬物療法にとどまらず、薬局での予防接種や禁煙や節酒などの生活習慣改善支援プログラムなど、疾患発症予防にまでその職域を拡大してきている。これらは、薬局薬剤師による糖尿病や高血圧患者への介入研究など臨床研究が1990年ころより行われ、それらが政策へ反映された結果である。Meta-analysisでも、薬局薬剤師の慢性疾患患者支援はプライマリケアに関わる他の医療職と比較しても同等以上の成果を上げていることが報告されている。

本シンポジウムでは、海外での介入研究の成果と併せて、日本で実施した薬局薬剤師による慢性疾患患者への介入研究 COMPASS(糖尿病)、COMPASS-BP(高血圧)の結果および、現在カナダ、アルバータ州で実施されている薬剤師による糖尿病患者への介入研究:RxING Practice Tool 研究について紹介する。これら国内外の研究成果をふまえ、当日は薬局薬剤師による慢性疾患管理の可能性について会場の参加者とともに議論できればと考えている。